平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅡＢ(SeminarⅡＢ) 【舛田ゼミ】			授業コード	E002575
担当教員名	舛田　佳弘			科目ナンバリングコード	E21202
配当学年	2	開講期	後期		
必修・選択区分	必修	単位数	2		
履修上の注意または履修条件	休暇中になじみのない土地への旅行を奨励します。時間もお金もかけなくて構いませんが、何か面白いもの、特徴的なものを探すようにしてください。経済学の基本的な用語・概念を理解していること				
受講心得	他の授業と同じく、出席は必須です。既存の常識を疑ってみる気持ちを持ってください。間違いを気にしなくて構いませんので、ゼミ中の発言は積極的に行ってください。自身の分担する報告は確実に行ってください。				
教科書	第一回目のゼミで決めます。				
参考文献及び指定図書	『世界経済を破綻させる23の嘘』 徳間書店 進化経済学ハンドブック				
関連科目	経済政策論(2年次前期)、国際経済政策(2年次後期)				

授業の目的	経済学は社会科学の多くの分野に適用されていますが、世界にはまだ多くの問題が未解決のままです。その理論的厳密さにもかかわらず、現実が変わらない原因はどこにあるのでしょうか。経済学の反省も踏まえ、より住みやすい社会の可能性を一緒に考えます。
授業の概要	前半は主流派経済学と対立する見方について、グローバリゼーションをめぐる議論を紹介します。後半は主流派と異端のそれぞれの見解について、英文テキストも私用して輪読と報告を行ってもらいます。報告の際にはレジュメを用意して、要約と自身の意見を述べてもらいます。レジュメは2～3千字程度で報告者以外の人間が聞いて理解できるものを用意してください。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーション 各人の自己紹介とゼミの進行形式などを説明し、(人数によっては)グループ分けを行います。 皆で教科書を選び、報告者の分担を決めます。	文献講読に3～4時間、レジュメ作成で2～4時間はかかると考えて、早めに取りかかかるように。
第 2 週 ： 経済学の考え方(1) 国内経済における政府と市場の関係について復習します。主にミクロ経済学的視点に立ちますが、オルタナティブからの批判も同時に考えます。	報告用文献をしっかり読んで、わからない語句等を調べておく(2～3時間はかける)
第 3 週 ： 経済学の考え方(2) 貿易と経済発展の関係について、さまざまな視点(構造主義的、従属論、世界システム論など)から政府の行うべき役割についての見解を再考します。	報告用文献をしっかり読んで、わからない語句等を調べておく(2～3時間はかける)
第 4 週 ： 進化経済学の視点 経済学のオルタナティブとして、進化経済学の基本的なアイデアを紹介をします。	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第 5 週 ： 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第 6 週 ： 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第 7 週 ： 報告	次回報告の準備

	担当者以外も読んでおくこと
第 8 週 : 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第 9 週 : 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第10週 : 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第11週 : 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第12週 : 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第13週 : 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第14週 : 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第15週 : 報告	次回報告の準備 担当者以外も読んでおくこと
第16週 :	

授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ : 地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

〇単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	報告者は自身の分担を責任を持って報告すること(どうしてもできない場合は事前に連絡する)。 報告者以外も毎回一度は発言すること。
【知識・理解】	用語等はあらかじめ自分で調べてくること。 わからない部分があっても、何がわからないか明確にし、途中で投げ出さない。
【技能・表現・コミュニケーション】	聞き手にわかりやすく報告することを心がける。 担当者以外は必ず質問や感想、意見を述べること。
【思考・判断・創造】	間違っても構わないので、自分なりに理解できたと思えるまで考えること。

〇成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	**期末試験・中間確認等 (テスト)**	**レポート・作品等 (提出物)**	**発表・その他 (無形成果)**	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			**25点**	
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。			**20点**	

【技能・表現・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			**25点**
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。			**30点**

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安

成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	レジュメの完成度：担当者以外の人間が聞いて、内容を理解できるよう2～3千字でまとめること。また、わからない語句等は予め調べてくること。
発表・その他（無形成果）	テキストの内容を理解して、他の人に伝えられる。 他人の報告に対して、自分なりの意見表明ができる。